

横浜市立西寺尾第二小学校

平成30年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
○「問題に気付く-考えを持つ-伝え合う(高める・深める・広げる)-深める・・・」、問題解決の能力を高め、夢・希望・活力あふれる学校をつくります。	
・「分かる授業」「楽しい授業」をめざし、主体的な学びを通して、子どもの「伝え合う力」を育てます。	
・あいさつができる子を育て、一人ひとりが自己有用感をもち、楽しく学校生活が送れるようにします。	
・自分の体に関心をもち、心と体を鍛え、体づくり・仲間づくりを推進します。	
・まちの「人」とのかかわりを深め、まちの中で自分の力を発揮しようとする子を育てます。	

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)	基礎・基本の定着に重点をおくとともに、「学び合い」を重視した授業を取り入れ、主体的に問題解決していく中で「伝える力」の育成を目指す。	①つきたい力を明確にして、本時の学習目標を児童に明示する。目標に対しての振り返りを行い、基礎・基本の定着を図るとともに、わかる授業を目指す。②主題研究のテーマを「豊かにかかわり合い主体的に問題解決する子」と設定。主体的に学習に取り組みながら、学年に応じた言語能力を育てるとともに、自分の言葉で伝え合う力を育む活動を設定する。
担当	研究研修部	

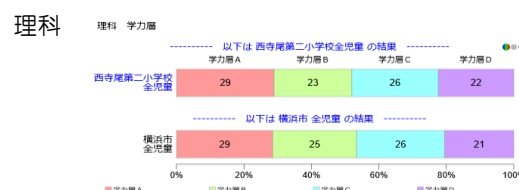
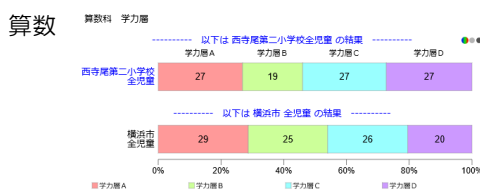
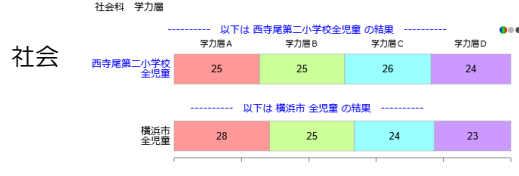
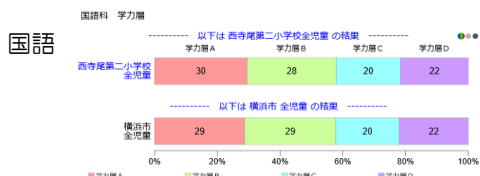
2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力と意識の調査に関する概要

学力においては、市平均以上の学年が2学年あるが、学年間の差が大きい。また生活意識、学習意識を見ると、学力の結果と一致していることがわかる。

学習意識を高め、学力向上を図るためには、教職員による組織的な取組が必要である。今年度は国語科を中心に取り組んでいく。

(2) 教科学習の状況



(3) 経年変化の状況と要因の分析 (学習・生活意識調査も含めて分析)

学習への意識と学力の結果において、学年の差が大きいことが特徴である。全児童の結果は算数科以外の教科は市平均とほぼ同じである。児童の実態を丁寧に分析し、実態に応じた取組を行っていく。

3 平成30年度 学年・教科等としての具体的取組

1 学年

学習の仕方や基礎・基本を身に付け、様々なことに関心を持ち、課題解決に向けて努力しようとする子を育てる。

- 国語科等で、説明する文章、紹介する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、できる限り対話をする場面を位置付ける。
- 分からないこと、詳しく知りたいことを尋ねたり、気持ちを表情や態度、言葉で表したりしながら対話するように指導する。
- 自分の経験と結び付けて、感想や考えをもつように指導する。

2 学年

学習の基礎・基本を身に付け、指示をしっかりと判断しながら、課題解決に向け取り組もうとする子を育てる。

- 国語科等で、書くことや読むことの指導において基礎・基本を大切にに取り組む。
- 算数科の学習では、活用の力を伸ばすために、学習したことを身の回りの事象に結び付けて考える習慣を身に付けていけるようにする。
- 読書の習慣を定着させていくことには、家庭と連携をしながら取り組んでいく。

3 学年

子ども一人一人の学習状況に応じた学習方法や学習形態を工夫したり、体験を重視したりして自らの問題を解決していこうとする子を育てる。

- 国語科では、特に、様々な種類の文章を読む機会を多く取り入れる。
- 算数科では、学習したことを身の回りの事象に結び付けて考えるよう指導をしていく。
- 社会科等で見学・調査したことを説明する文章、記録する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。

4 学年

気付く力を身に付け、自分の思いや考えを進んで表現できる子を育てる。

- 国語科の学習を苦手と考えている児童が他教科より多いので、分かる授業、楽しい授業を工夫する。
- 算数科では、活用の力を伸ばすために、考えを深めることができるよう指導する。
- 社会科では、見学や体験を取り入れ、興味をもって学習に臨むことができるように指導する。

5 学年

自分の考えを持ち、友達との語り合いの中で、その考えを深めていける子を育てる。

- 国語科では、話の内容や話し方に関心を持って聞き、自分の感想を述べる力をつけるよう指導する。
- 算数科では、学習したことを日常の場面でも生かせるよう指導する。
- 社会科理科では、見学、体験や実験を通して学習することを大切にする。

6 学年

興味と関心を広げ、あきらめずに積極的に挑戦し、学び続けようとする子を育てる。

- 教科等の学習で今まで身に付けた様々な文章を書く力を自覚的に生かすことができるようにするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 曖昧な点を明確にしたり、違った視点を打ち出したりしながら話し合うように指導する。

個別支援学級

「話す力」「聞く力」を向上させる。

「分かる」「できる」喜び、学び合う喜び、追究する喜びをもって学習できるようにする。

確かな学力をつける。

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を位置付ける。
- 子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にし、必要な取組を行う。
- 子どもに応じた分かりやすい掲示物を工夫するなど、言語環境の整備を行う。